



看護学部長挨拶

看護学部長・教授 春山早苗

2020年は東京オリンピックの開催により、明るく、活気ある1年となるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、それは先延ばしされることとなりました。本学では、4月3日に入学生と教員のみにより縮小開催ではありましたが入学式を執り行い、通常の授業を開始しました。しかし、4月7日には7都府県を対象に緊急事態宣言が発令され、それが4月13日には全都道府県に拡大されることとなり、看護学部では4月10日から対面授業を中止し、7月17日まで全面的に遠隔授業に切り替えることとしました。本学部では、平成25～29年度に文部科学省の補助金を得て、へき地を含む地域の看護師がチーム医療の中で機能していくための情報通信技術（ICT）を活用したトレーニング・プログラム及び教育・支援システムを開発・実施する「日本型地域ケア実践開発事業」に取り組み、平成30年度からは大学の事業として継続して行っています。このことが、このたびの遠隔授業の実施にも大変役立ち、比較的円滑に遠隔授業に移行できたと自負しています。しかし、それだけではなく、時間割を大幅変更して、1～3年次の実習を後ろ倒しにし、遠隔授業が可能な科目を前倒しにするなど、全学生の今年度の学習へのCOVID-19による影響が最小限となるよう教職員に尽力していただきました。学生、特に1年生のみなさんはいきなりの遠隔授業となり、自宅や寮で遠隔授業を受けるための端末やネット環境などの学習環境も様々であることから、対面の授業とは同様にいかない学習のしづらさを感じた点多々あったことと思います。しかし、そのような状況においても、学生のみなさん一人ひとりが一生懸命に学習する様子が見受けられ、安心するとともに、そのような学生のみなさんを誇りに思います。また、ご家族の皆様のご理解とご協力のおかげと、改めて感謝申し上げます。

7月27日からの4年生の実習を皮切りに、9月の半ばからは1～3年生の講義・演習・実習と、対面授業を再開します。7月に入り、COVID-19の感染が再び広がっており、まだまだ予断を許さない状況が続いています。対面授業の再開にあたっては、密集・密接・密閉を避け、新しい生活様式を学生、教職員ともに実践し、感染対策に努めて参りたいと思います。遠隔授業は対面授業と比べて悪いことばかりではなく、一方的な講義等の対面授業よりもメールなどで教員に質問しやすかったり、また学習管理システムであるムードルにおける課題などと組み合わせることによって、課題への取り組みについて教員が学生個々にフィードバックしやすかったり、さらには録画された授業を再度、視聴することによって復習がしやすかったりと、教員、学生の双方にとって、良い面も多々ありました。今後は、このような遠隔授業によって見出された教育および学習の方法を対面授業に組み合わせた新しい教育方法および学習方法によって、教育の質と学習効果を高めていけるのではないかと考えています。

保護者の皆様や関係者の皆様には、今後とも本学部の教育についてのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

着任から1年を経て思うこと

老年看護学 教授 上野 まり



昨年4月に、本学の老年看護学教員として着任致しました。1か月後に年号が変わったり、秋には人生の節目を迎えたりと、変化のある1年でした。中でも最大の変化は転居です。これまで約30年間、横浜の片田舎から往復2～4時間かけて、東京、横須賀、千葉に通勤していました。3・11後の8年間は被災地支援活動に携わり、新幹線で東京から栃木を通り越して仙台へ通っておりました。自治医大には学会でお邪魔したり地域ケア事業の委員をさせていただいたりご縁をいただきましたがよくわかっておりませんでした。誰に言っても「自治医大」は周知されますが「群馬県ですね」と言われたり、住所を言うと「下野」が通じなかったりする人も多く、自分も含め「関東人」が知らない関東の奥深さを痛感しました。昨年秋には半世紀ぶりに日光を訪れ、50年来の友人たちと小学生時代の修学旅行を懐かしむこともでき、おかげさまで良い思い出ができました。

独居生活も40年ぶりでした。寂しいでしょうと言われるかもしれませんが、24時間全てが自分だけの時間であり、身の回りには自分の好きな物しか置かれていない環境に喜びを感じてしまいました。夫や子供のための家事、雑事に追われている友人には羨ましがられました。

本学はとても特徴のある大学です。医学部は全寮制で学びますが、看護学部は近隣県の出身者が多く通学生も多数存在し、大きな違いを感じます。これまで国・公・私立大学に所属し、設置主体に応じて求められる大学のミッションは様々だと感じます。本学は医療過疎を含めた様々な地域において、看護サービスを提供することにより人々の生活を支援できる看護専門職を養成していると、私は認識しています。令和2年のウィルス禍は都市の脆弱さを露わにし、「疎開」という言葉も飛び交いました。今後は都市や過疎地に関わらず、医療難民・介護難民が出現することでしょう。最新の医療機器が備わっていても、逆に何もない状況であっても、ニーズを的確に素早く掴み、その場の条件に応じた最善策を選択し、人々に真摯に向き合って柔軟に動ける看護職を、皆様と共に輩出できたと願っております。そのために、短期間で大変微力ではありますが努力するつもりです。

毎朝聞いていた「FM東京」が聞けなくなったので、着任直後に駅近くに開設されたし「FMゆうがほ」のリスナーになりました。地元のニュース満載です。栃木県や下野市の魅力に、もっと触れていけたらと思っています。今後とも公私共にご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



看護総合セミナーの様子

看護学部 学科目別教員一覧 (令和2年7月1日現在)

学科目	職位	氏名	備考	学科目	職位	氏名	備考	
看護基礎科学	教 授	大塚 公一郎	学生委員長 学年担当アドバイザー総括	母性看護学	教 授	成田 伸	4 学年担当アドバイザー	
	准教授	倉科 智行	1 学年担当アドバイザー 2 学年担当アドバイザー		准教授	角川 志穂		
	准教授	平尾 温司			講師	望月 明見		
	講師	鹿野 浩子			助教	上野 知奈		
	講師	関山 友子			助教	谷田部 典子		
基礎看護学	教 授	本田 芳香	1 学年担当アドバイザー	小児看護学	教 授	横山 由美	教務委員長 3 学年担当アドバイザー	
	教 授	小原 泉			准教授	田村 敦子		
	准教授	福田 順子			助教	小西 克恵		
	講師	八木 街子			助教	飯島 早絵		
	講師	湯山 美杉	1 学年担当アドバイザー 2 学年担当アドバイザー	成人看護学	教 授	村上 礼子	広報委員長 2 学年担当アドバイザー	
	助教	石井 容子			准教授	佐藤 幹代		
	助教	井上 育子			准教授	長谷川 直人		
助教	甲賀 優貴	講師	古島 幸江		3 学年担当アドバイザー			
地域看護学	教 授	春山 早苗	看護学部長			助教	佐々木 彩加	
	教 授	塚本 友栄	4 学年担当アドバイザー	助教		渡邊 賢治		
	講師	青木 さぎ里		助教	谷島 晴香			
	講師	江角 伸吾	3 学年担当アドバイザー	老年看護学	教 授	上野 まり	国家試験対策委員長	
	講師	島田 裕子			教 授	浜端 賢次		
助教	横山 絢香	准教授	川上 勝					
精神看護学	教 授	永井 優子	4 学年担当アドバイザー		総合科目	助教		小此木 百合香
	教授	半澤 節子				助 教		鈴木 美津枝
	講師	石井 慎一郎						
	助教	富川 明子						

解剖実習見学について（人体の構造と機能Ⅱ）

令和2年2月27日（木）、看護学部1学年105名が医学部解剖学実習室において、解剖実習見学を実施しました。本学の看護学部生は入学した4月から1年間を通して、看護の対象であるヒトの身体構造について学習します（授業科目名：人体の構造と機能ⅠおよびⅡ）。看護職を目指す上で、ヒトの身体構造の理解は、薬物療法が成立する根拠や疾病の成り立ちを学習する上でも大変重要なものであります。この解剖実習見学では、講義だけでは学習できない主要な臓器の質感や体表に投影した場合の位置関係、骨格筋や末梢神経の走行、主要な脈管等の内容について、生前に献体登録されたご遺体から学ぶことが出来る貴重な機会となっています。当日は看護学部専任教員である平尾の他に、医学部解剖学講座解剖学部門 野田泰子教授 三木玄方講師、筑波技術大学 加藤一夫教授（元解剖学部門准教授）にご指導をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

なお、当日はマスクの着用と消毒用アルコールによる手指消毒を行い、新型コロナウイルスの感染拡大防止に留意しながら実施されました。

（看護基礎科学 准教授 平尾 温司）



実習終了後、解剖学実習室前のフロアで



アルコールによる手指消毒を実施中



実習見学直前の様子

モンゴル国立医科大学との交流

令和元年9月7日（土）～11日（水）までの5日間、モンゴル国立医科大学ダルハン校のバイサー学部長をはじめ、他2名の先生方が自治医科大学看護学部を訪問されました。



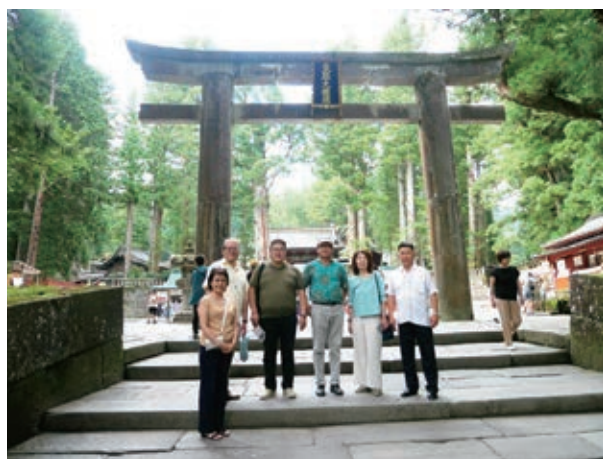
左から 春山学部長、ツアップシャー学部長、永井学長、バイサー学部長、バンザイ学部長、半澤教授



共同研究に関する打合せ



感謝状の贈呈



日光視察



演習見学

令和元年度オープンキャンパス

令和元年5月18日(土)に第1回、7月27日(土)に第2回、8月23日(金)に第3回オープンキャンパスが看護学部校舎において実施されました。



ようこそ看護学部へ！



学生と対面でご相談



わからないことは何でも聞いてください！



演習の授業の内容をご紹介します



先生自らご説明します！



多くの方にご来場いただきありがとうございました

ラボルームの紹介コーナー

今回はスキルズラボⅠ・Ⅱ・Ⅳ（旧：基礎看護学演習室）をご紹介します。スキルズラボⅠ・Ⅱ・Ⅳには、それぞれに12台のベッド及び床頭台やアウトレットパネル等の入院環境が備えられており、ベッド1台に対し3名の学生で使用できます。

主に1年次生2年次生の看護技術演習やフィジカルアセスメントの科目で使用します。AV機器が整備されており、全ラボに同時配信される講義映像で解剖生理学的根拠を確認した上で身体診察の演習に入ることができます。また豊富なシミュレーターを用いて実践的な技術習得を目指します。ラボ入室の際には、手洗いと身だしなみチェック、挨拶などの基本ルールを習慣化し、看護専門職としての立ち居振る舞いも体得していきます。

（基礎看護学 准教授 福田 順子）



習慣、整理、整頓、清掃、清潔（5S活動）実践！



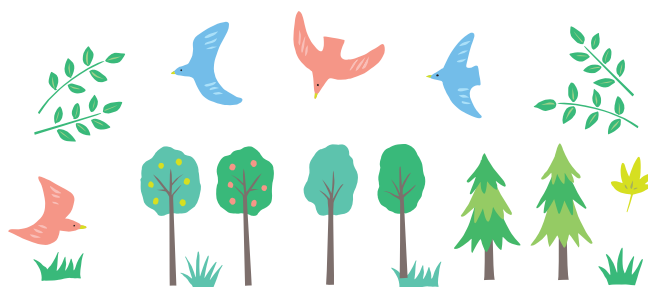
使用後は毎回必ず「原状復帰」がモットー



様々な模型を使い、解剖学的根拠を常に確認



疾患を設定し、呼吸音や心音や腸音を聴取



第2回 教員の研究活動紹介

～褥瘡処置（デブリードマン）の教材開発～

総合科目 助教

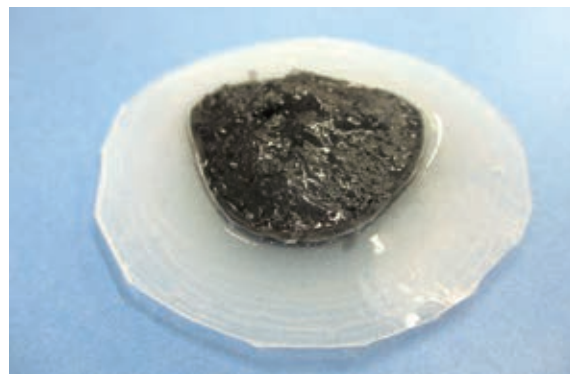
鈴木 美津枝



2015年より、特定行為に係る看護師の研修制度が施行され、全国の指定研修機関で研修が開始しました。本大学の特定行為研修の区分別科目にある創傷管理関連では、実際の褥瘡又は慢性創傷の外科的デブリードマン（以下、デブリードマン）を行います。デブリードマンは手術療法に属する手技のため鑷子や剪刀の用具の使い方、壊死組織の切除の際には出血の危険を伴うため出血時の対処を習得できるためのトレーニング教材が必要と考えました。しかし、既存のシミュレーターには視覚的学習には役立つものはありましたが、デブリードマンの一連の手技の習得に活用できるものは見当たりませんでした。そこで、用具の使い方や出血時の対処法のトレーニングができる教材を開発することになりました。実際の壊死組織を想定してトレーニングができるよう、実際の黒色壊死組織に少しでも近い教材にしようと考え、素材や壊死組織そのものの形の検討に試行錯誤する日々でした。このような検討を重ねた結果、開発した教材は特定行為で研修生のトレーニングに使われています。研修生からは「実際の患者に見立てて、把持の仕方、切開や剥離の仕方、はさみの使い方の練習が出来た」「出血時の止血の対処のための連絡ができた」という意見がありました。この教材でトレーニングを重ねた研修生たちは、実技試験に合格して実際の患者さんのデブリードマンを実施しています。開発品は、現在、特許出願中でもあります。

※褥瘡：寝たきりなどによって、体重で圧迫されている場所の血流が悪くなったり、滞ることで、皮膚の一部が赤い色味をおびたり、ただれたり、傷ができた状態。

※外科的デブリードマン：血流が途絶えた組織をメスやハサミを用いて取り除くこと。



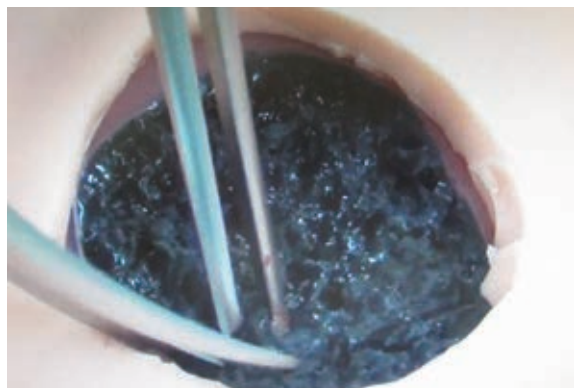
褥瘡処置（デブリードマン）の教材です



出血を想定したトレーニングのために教材の裏面から模擬の血液を注入します



鑷子や剪刀などの用具の使い方のトレーニング



実践を想定したトレーニング



令和元年度自治医科大学卒業式および学位記伝達式

令和2年3月6日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、教職員出席のもと、令和元年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行されました（医学部第43期生119名、看護学部第15期生105名）。式典では、看護学部を代表して遠藤舞子さんに、永井学長から卒業証書・学位記が授与されました。卒業式終了後、看護学部校舎において、学位記伝達式が開催されました。（本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教職員および卒業生のみで開催されました）。



令和2年度自治医科大学入学式

令和2年4月3日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、教職員出席のもと、令和2年度自治医科大学入学式が執り行われました。今年度は医学部123名（第49期生）、看護学部105名（第19期生）が入学し、看護学部を代表して戸崎綾乃さんが誓いの言葉を読み上げました。（本年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教職員および新入生のみで開催されました）。



令和2年度年間スケジュール

前学期					後学期						
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前学期授業開始(2日) 入学式(3日) 春季休業(4月29日～5月5日)	創立記念日(14日)		1・2年次定期試験(27日～31日) 4年次定期試験(16日～20日)	再試験(8月31日～9月2日) 夏季休業(8月12日～9月22日)	後学期授業開始(23日)	薬師祭(9日～11日)	防災避難訓練(2日)	冬季休業(12月19日～1月3日)		1・2年次定期試験(5日～12日)	学年末休業(13日～) 卒業式(5日) 再試験(1日～2日)
1年					「対象の理解実習」 9/14～18						
2年								「日常生活援助実習」 「成人継続療養実習」 2/15～3/5			
3年					「前学期実習」 9/21～10/23			「後学期実習」 11/16～2/19			
4年		「総合実習」 7/27～8/7			「助産学実習」(選択) 8/10～10/30						
全体	春季休業 4/29～5/5			夏季休業 8/12～9/22				冬季休業 12/19～1/3			学年末休業 3/13～

※年間スケジュールについては7月1日現在のものであり、新型コロナウイルス感染拡大の影響により変更が生じる場合があります。



薬師祭の紹介

3年 千明 理紗

薬師祭は、毎年10月に開催される自治医科大学の学園祭です。毎年様々なテーマを掲げ、薬師祭に関わる全ての方に楽しんでもらえるような企画を準備しています。昨年度の第48回薬師祭では、「おもいゝえがお」というテーマを掲げました。このテーマには、普段勉強や部活動等で努力を重ねている学生達にそれぞれ胸に秘めている「おもい」を「えがお」で表現してもらい、それを目にした方々が「えがお」になり、何かしらの「おもい」を感じていただきたいという思いが込められています。このテーマの下、薬師祭成功を目指して、113名の薬師祭実行委員を中心に約半年間準備してきました。

しかし、昨年度の薬師祭は直前に発生した台風19号の影響で、中止という決断を下しました。薬師祭実行委員会として最後まで何とかして開催できないかを検討し続けましたが、安全面を考慮し、中止せざるを得ませんでした。薬師祭を楽しみにしてくださっていた方々には大変申し訳ございませんでした。

私は第48回薬師祭副実行委員長として、薬師祭の運営に携わりました。この約半年間に渡る期間は楽しいこともありましたが、辛いことのほうが多かったように感じます。特に、薬師祭直前は急な変更が多く、薬師祭実行委員会内での混乱や委員同士のぶつかり合い等で体力的にも精神的にも疲労困憊でした。しかし、今では薬師祭副実行委員長として運営に携わることが出来て、本当に良かったと感じています。そのように感じる事が出来たのは、今まで一緒に努力してきた薬師祭実行委員のおかげです。時にぶつかり合いながらも薬師祭を成功させるために尽力し続けてくれた委員や誰か困っている人がいたらすぐに手を差し伸べてくれる委員等、自慢の委員ばかりでした。1人1人が力を出し合って作り上げる私たちの薬師祭を通して、これからもみなさまと感動や素敵な時間を共有したいと思います。



昨年度のパフレット



過去の薬師祭の様子

第49回薬師祭に関するお知らせ

今年の10月9日(金)、10日(土)、11日(日)の3日にわたり開催する予定でした第49回薬師祭は、誠に残念ではありますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために一般公開を中止とさせていただきますことになりました。事態が1日も早く終息し、再び薬師祭の場で皆様とお会いできる事を実行委員一同心から願っております。

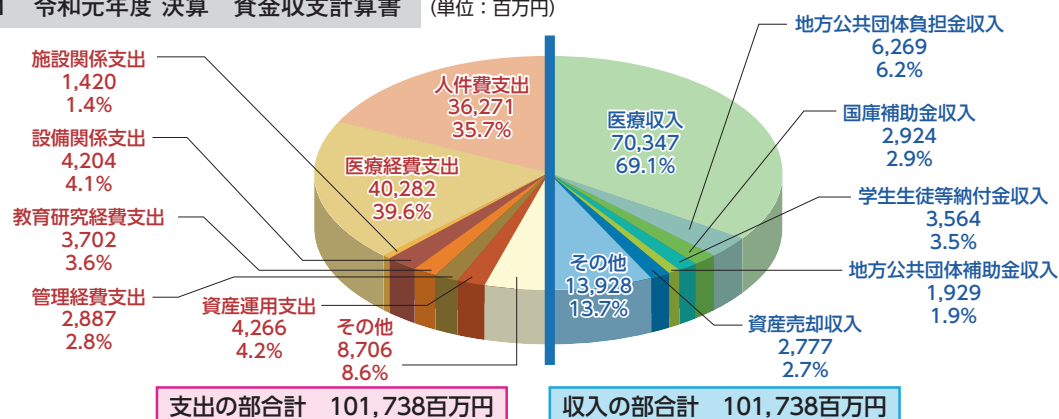
令和元年度 学校法人自治医科大学決算について

令和2年5月29日（金）に開催された理事会及び評議員会において、令和元年度学校法人自治医科大学決算が承認されました。決算の概要は次のとおりです。

・資金収支計算書（別図1）

1年間に実際に収入又は支出した金額（現金ベース）を主として科目別に分類して表した決算書です。

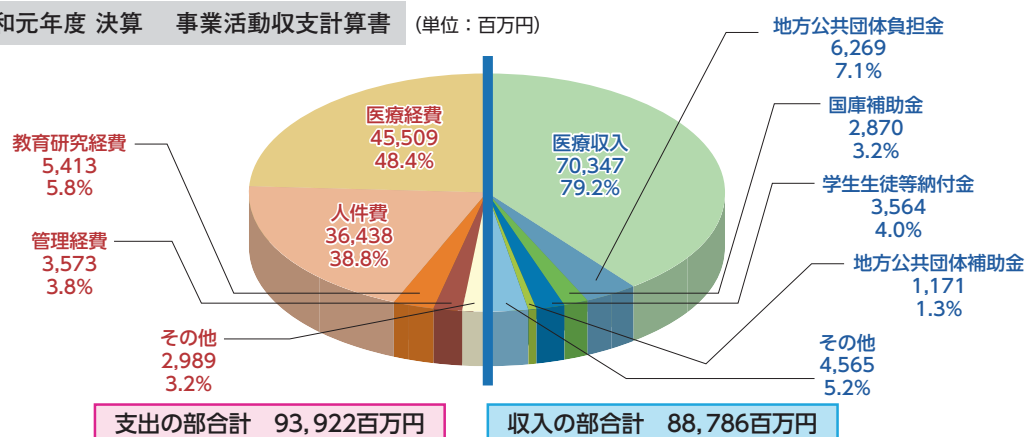
別図1 令和元年度 決算 資金収支計算書（単位：百万円）



・事業活動収支計算書（別図2）

企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した決算書です。

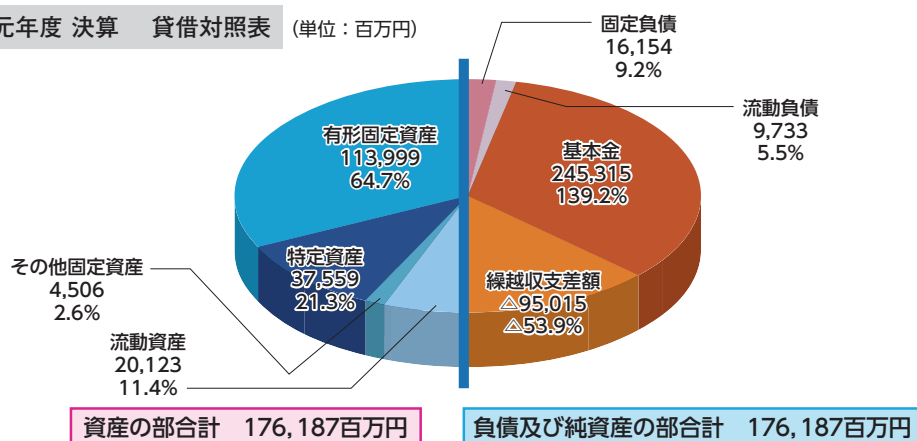
別図2 令和元年度 決算 事業活動収支計算書（単位：百万円）



・貸借対照表（別図3）

元年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。

別図3 令和元年度 決算 貸借対照表（単位：百万円）



※財務状況等の詳細は、大学ホームページhttp://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public_info/index.htmlの「情報公開」でご覧になれます。

令和元年度事業の概要について（大学事業報告書より、看護学部関係抜粋）

看護学部は、4年間の教育課程を通じて、豊かな人間性を涵養することに力を注ぎ、高い資質と倫理観を有し高度医療と地域の看護に貢献できる看護職者を育成するため、次の取組を実施しました。

① 学生教育に関すること

- ・これまでの看護師・保健師・助産師の国家試験における高い合格率を維持するために、国家試験を受験する4年生を対象に国家試験ガイダンスを4月に、2年生および3年生を対象に10月に開催しました。併せて、国家試験模擬試験（4年生対象 / 看護師3回、看護師必修1回、保健師3回、助産師3回、3年生対象 / 1回、2年生対象 / 1回）と、4年生を対象に国家試験対策ゼミを計23回開講しました。
- ・4年生対象看護師必修模試を選択から全員受験へ、国試対策ゼミを希望者参加から全員参加に変更し、既卒の国家試験不合格者に対しても模擬試験および国家試験対策ゼミへの参加を促しました。
- ・保健師国家試験対策（Moodle使用）、休日の校舎開放（国家試験前6日間）、国家試験の自己採点を実施しました。
- ・実習教育を充実させるため、メディカルシミュレーションセンターを活用し、一次救命処置研修会等を実施しました。
- ・各学科目においてルーブリックの導入について検討しました。
- ・ブータン医科大学との国際交流協定書を更新し、学生5名と教員3名を7日間派遣し、施設見学や看護学生と合同演習を行うなど交流を深めました。
- ・モンゴル国立医科大学ダルハン校、ゴビアルタイ校、ドルノゴビ校の3名の学部長が5日間の日程で来学し、本看護学部、附属病院を見学するとともに交換留学や共同研究について協議しました。

② 学生の受入れ・支援に関すること

- ・看護学部紹介DVDを新しく作成し、学生生活支援に係る看護学部独自の奨学金制度や看護学生寮等をアピールし、オープンキャンパスや進学説明会において効果的かつ重点的な広報活動を行い、志願者確保に努めました。
- ・相談ルームレターを定期的に発行しました。また、学年担当アドバイザーなどの教員を通して看護学部及び看護学研究科の学生に対し、学業・生活・進路等の相談ができる相談ルームの存在を周知しました。

③ 研究に関すること

- ・看護学部共同研究費による教員と看護職等との共同研究を8件実施しました。また、臨地の看護職等に対し、研究の計画立案及び実施に関する支援を14件実施しました。
- ・研究費獲得促進のため、教員向けに教育研究ミーティングを開催し、活発な情報交換を行い、競争的研究費獲得を含めた研究活動への促進を図りました。令和元（平成31）年度文部科学省科学研究費申請は6件でした。また、平成29年度に引き続き、間接経費による研究活動を補助する研究補助者1名を雇用し、データ集計等の作業の効率化を図ることができました。
- ・ブータン医科大学教員との共同研究に関し、日本での調査を実施するとともに、ブータンでの調査も開始しました。

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大の影響により落ち着かない日々が続きますが、今年度も無事にビタミンN第17号を発行することができました。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

（担当：成田伸、石井慎一郎、上野侑子）

ビタミンN 第17号

発行日：令和2年8月3日

発行：自治医科大学看護学部

本件に関するお問い合わせ先：

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

T E L 0285-59-7409（看護総務課）

E-mail vitaminen@jichi.ac.jp